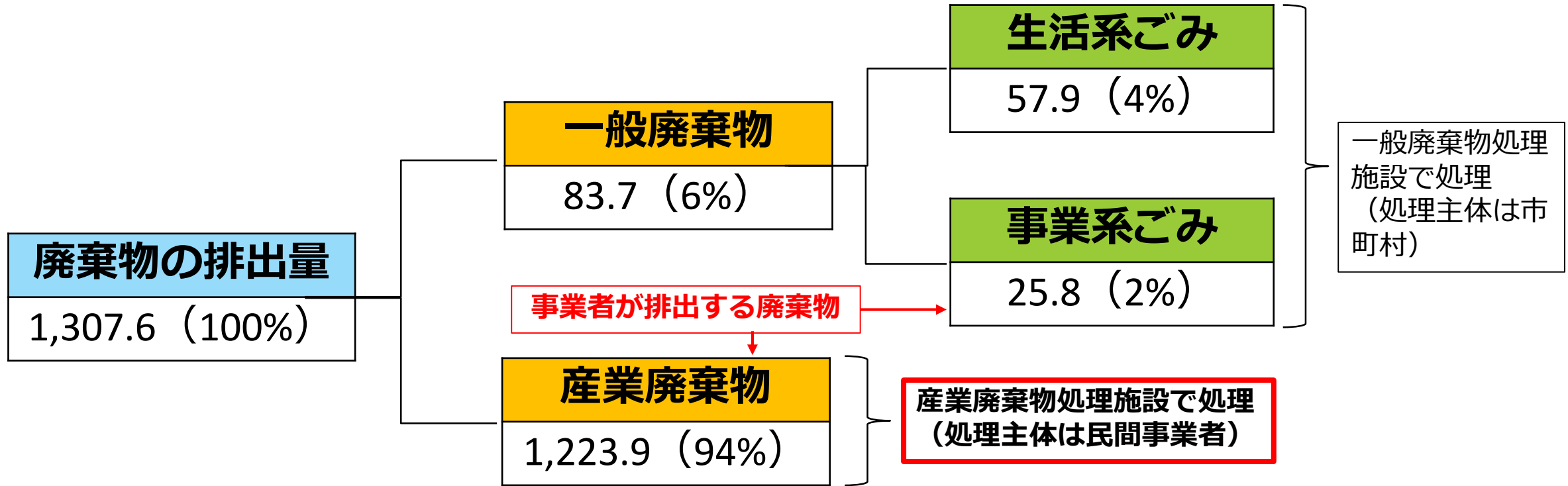

議事 (3) 県内の産業廃棄物の現状

(1) 県全体の廃棄物の排出量 (H28年度)

(単位: 万トン/年)



- ◆ 宮城県全体の廃棄物排出量は年間約1,300万トンで、全国総量の約3%を占める。
- ◆ そのうち事業者が排出する廃棄物は、約96%である (全国平均 約93%)

(2) 一般的な産業廃棄物処理の流れ

排出事業者

廃棄物の発生



木くず



廃プラスチック類



金属くず



がれき類 など

処分業者

中間処理



焼却



破碎など

再生利用



最終処分



(3) 産業廃棄物の実態調査について

◆ 宮城県では年1回、下記の調査を実施して、産業廃棄物処理の実態把握に努めている。

A 産業廃棄物 実態推定調査 (排出量の把握 = 推計値)

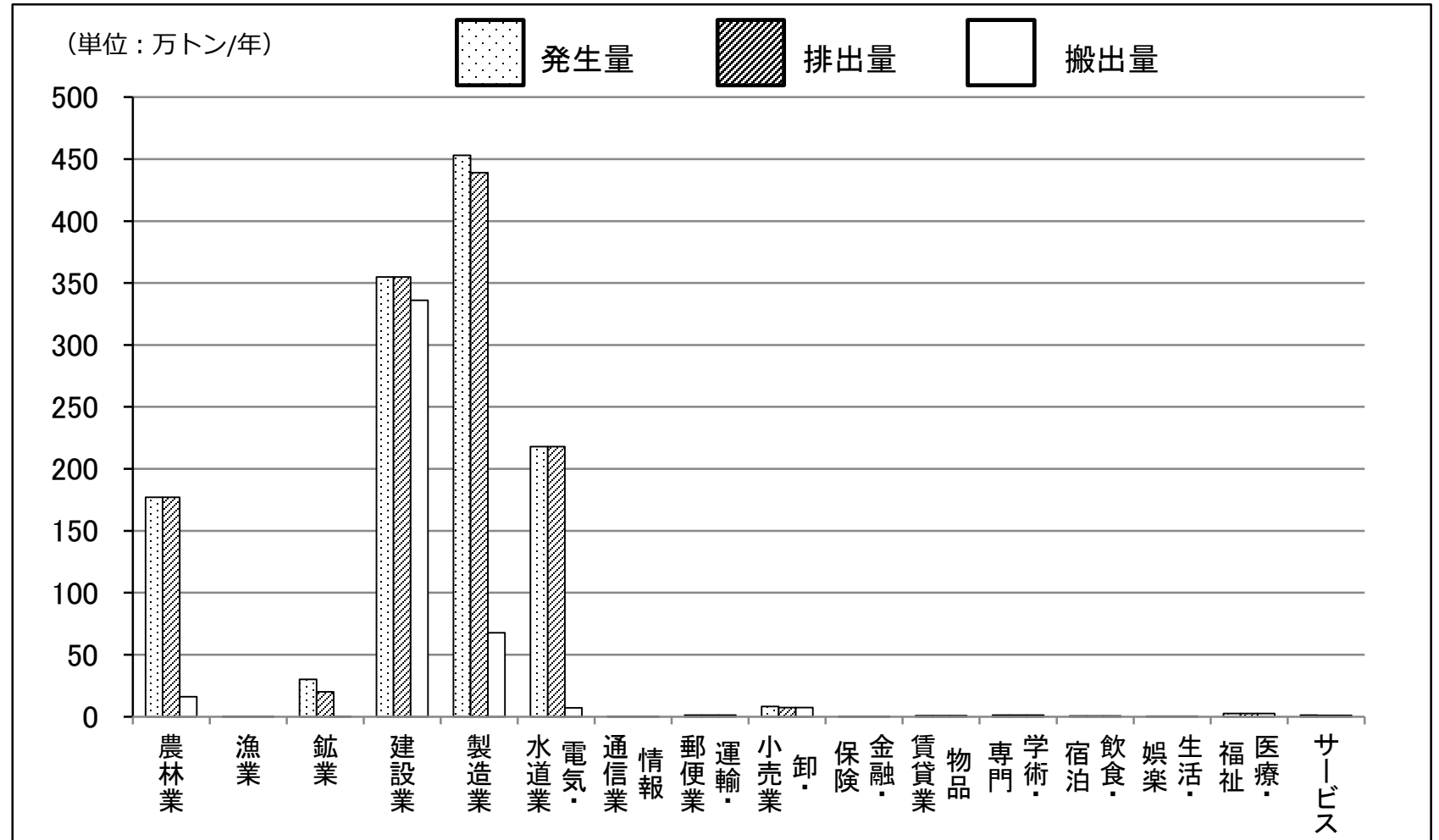
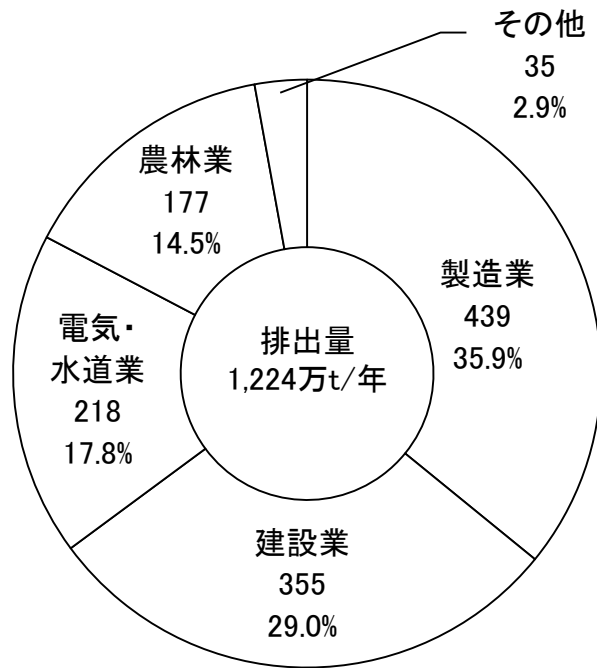
- ① まずは、5年に1回、大規模な「産業廃棄物実態調査」を実施し、データを更新している。
(全排出量の8割程度のデータ)
- ② 次に、国の実態調査指針に基づき、上記①のデータをもとに、経済センサスデータ（従業員数等）を活用して、県全体の排出量を推計している。
- ③ その後4年間は、毎年度、年間千トン（特別管理廃棄物は50トン）以上の産業廃棄物を排出している「多量排出事業者（県内400者／全排出量の7割程度）報告」のデータを活用し、県全体の排出量を推計している。

B 産業廃棄物 処分実績調査 (処分量の把握 = 実数値)

- ① 県内で産業廃棄物の中間処理や最終処分を行っている事業者からの報告を受け、その処理量を集計している。

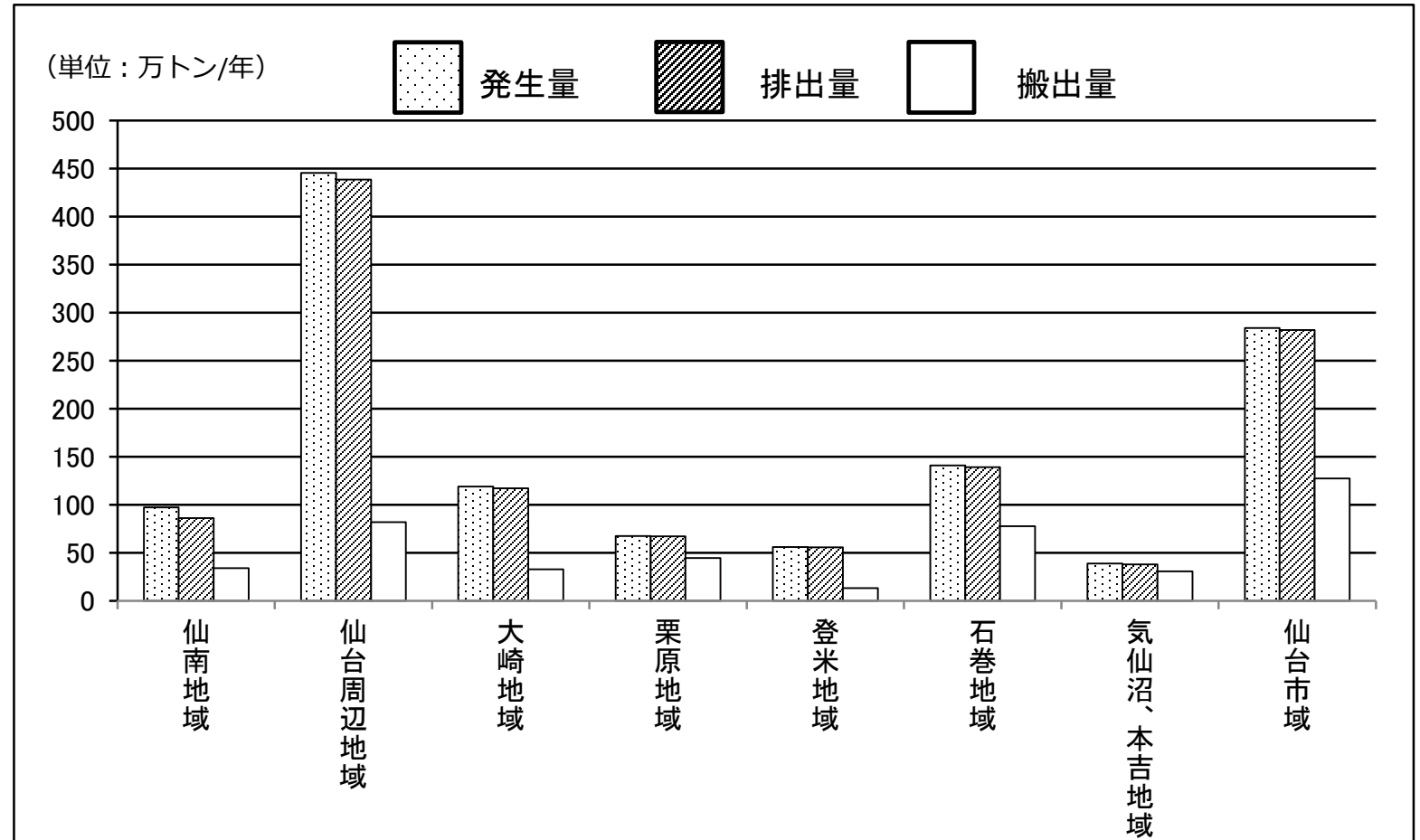
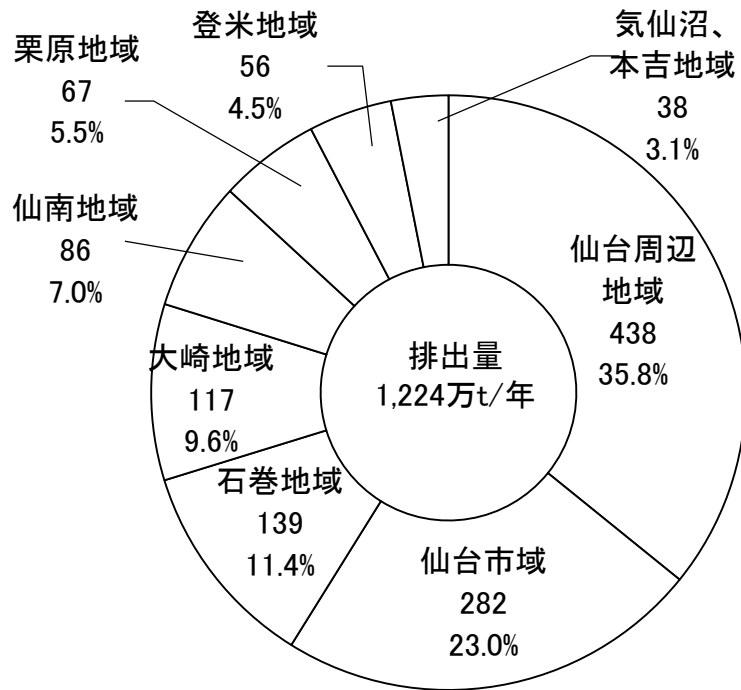
* この報告の回答率は9割を超えるため、ほぼ県全体の処分状況の実態を把握できる。

(4) 産業廃棄物 排出量 (業種別)



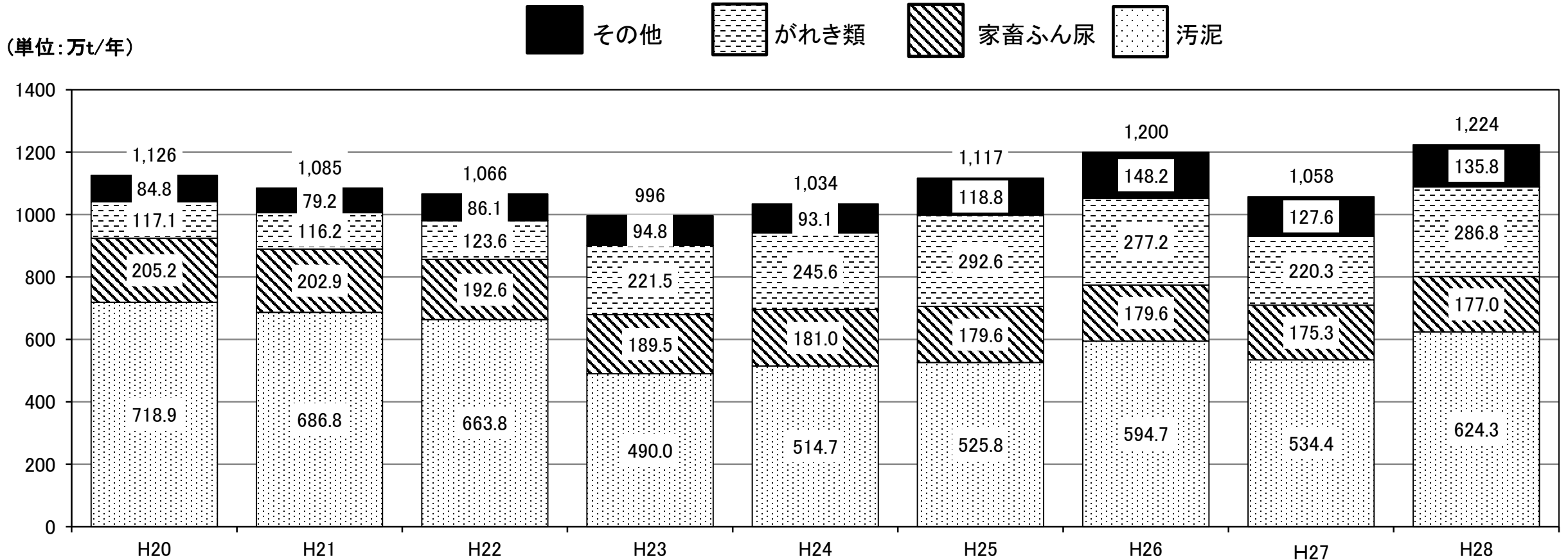
- ◆ 製造業の大部分は製紙工場の汚泥で，自社で減量化され，その搬出量は約15%と低い。
- ◆ 建設業は排出量は多いが，大部分はリサイクル率の高いがれき類であり，最終処分率は低い。

(5) 産業廃棄物 排出量 (地域別)



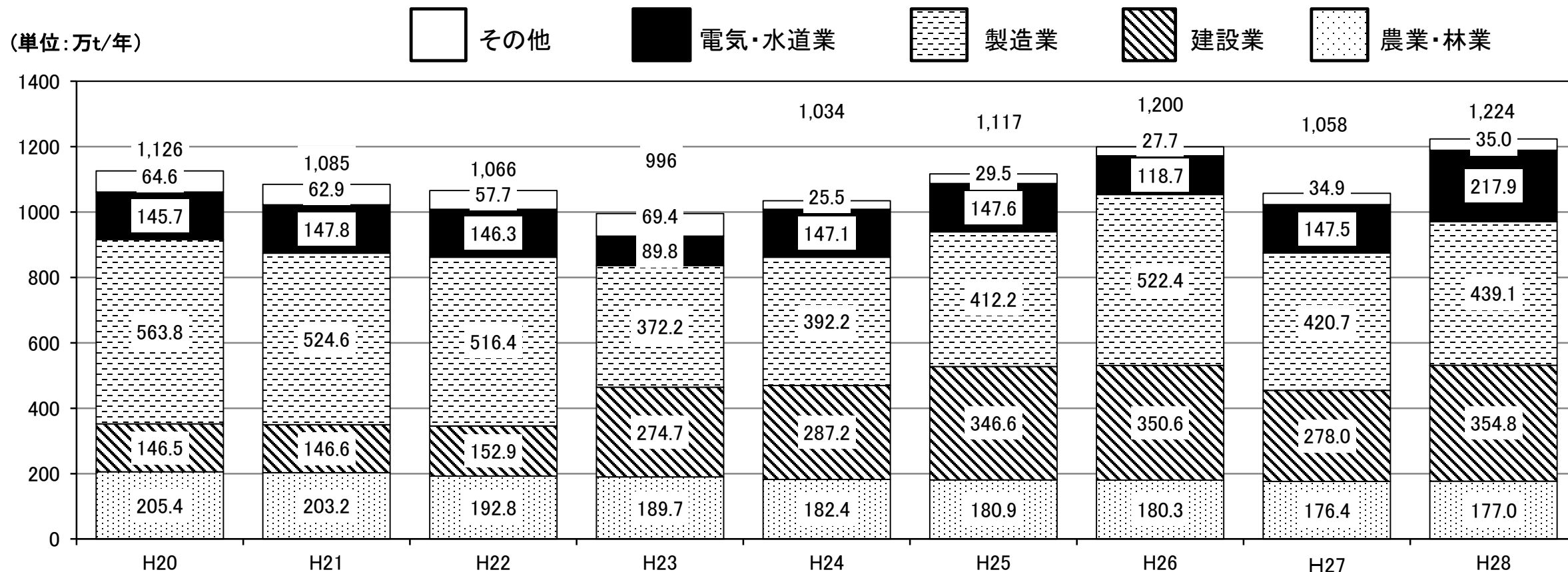
◆ 発生量及び排出量は仙台周辺地域が最も多いが自社で減量化される量が多く、搬出量では仙台市域が最も多い。

(6) 産業廃棄物 排出量の推移 (種類別)



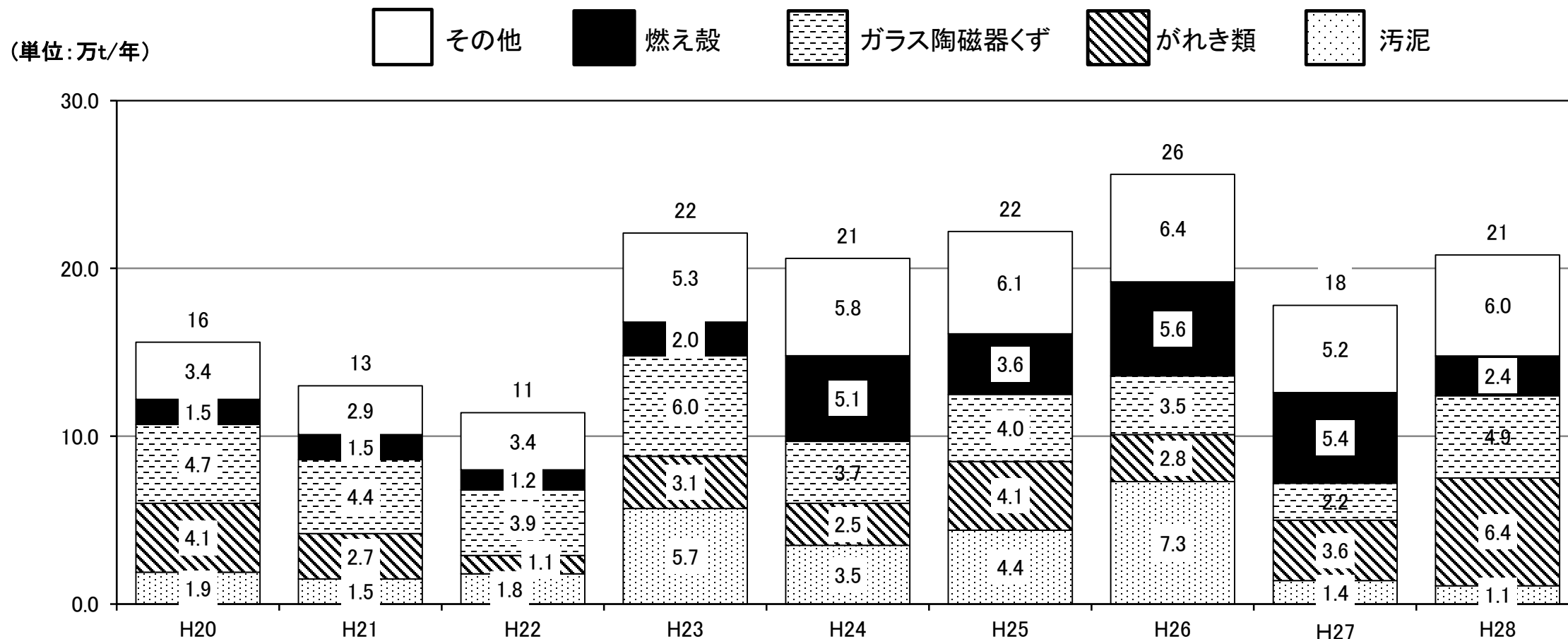
- ◆ H23以降は東日本大震災の復旧工事等により、がれき類が増加。
- ◆ 大震災後に減少した汚泥は、下水道施設の復旧等により回復傾向。

(7) 産業廃棄物 排出量の推移 (業種別)



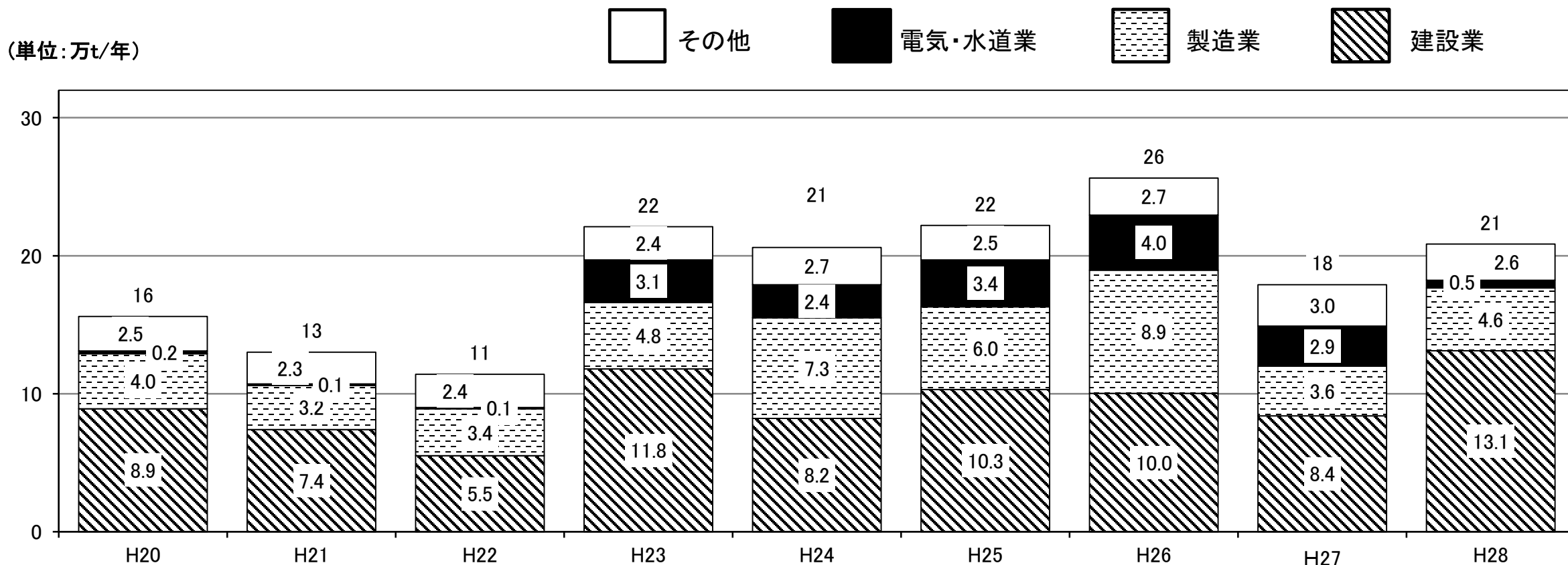
◆ H23～H26は、建設業の増加が顕著で、東日本大震災の復旧工事の影響によるもの。

(8) 最終処分量の推移 (種類別)



◆ H23以降は東日本大震災の影響で、特に汚泥、がれき類、燃え殻が増加。

(9) 最終処分量の推移 (業種別)



◆ H 2 3 以降は東日本大震災の影響で、特に建設業と製造業の最終処分量が増加。

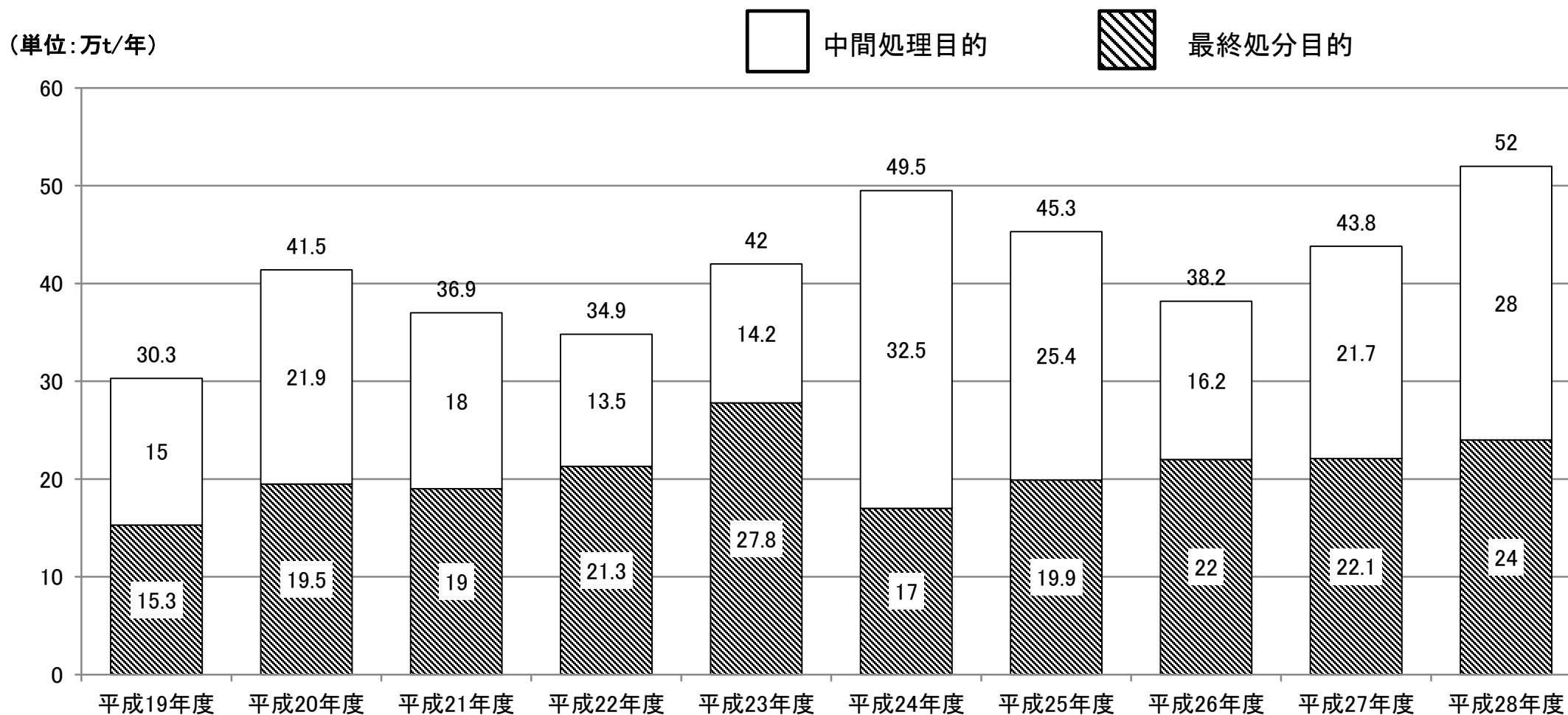
(10) 県内の産業廃棄物 最終処分場の稼働状況

1つはクリーンプラザみやぎで、他の1つは自社処理中心の民間最終処分場。

最終処分場の種類	処分される品目	仙台市	宮城県	合計
安定型	<p>◆ 有害物質や有機物等が付着しておらず、雨水等にさらされてもほとんど変化しない安定型産業廃棄物。</p> <p>①廃プラスチック類, ②ゴムくず, ③金属くず, ④ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず, ⑤がれき類 ⑥これらに準ずるもの</p>	2	2	4
管理型	<p>◆ 遮断型最終処分場でしか処分できない産業廃棄物以外のもの。</p> <p>①廃油（タールピッチ類に限る）, ②紙くず, ③木くず, ④繊維くず, ⑤動植物性残さ, ⑥動物のふん尿, ⑦動物の死体, ⑧燃え殻, ⑨ばいじん, ⑩汚泥, ⑪鉱さい等 ⑫廃棄物を処分するために処理したもの</p>	2	2	4

- ※ 仙台市は政令指定都市であり、独自に廃棄物処理法の許可権限を有するため、県と区分している。
- ※ 自社の廃棄物だけの最終処分を行う処分場や、埋立が完了した処分場は除く。

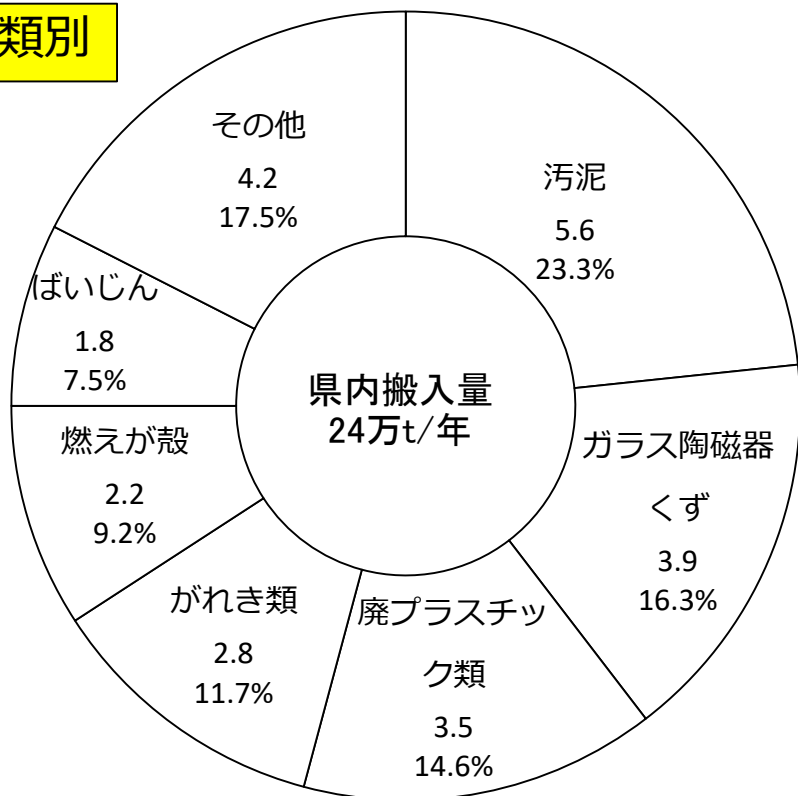
(11) 産業廃棄物の県外からの搬入量の推移 (実績値)



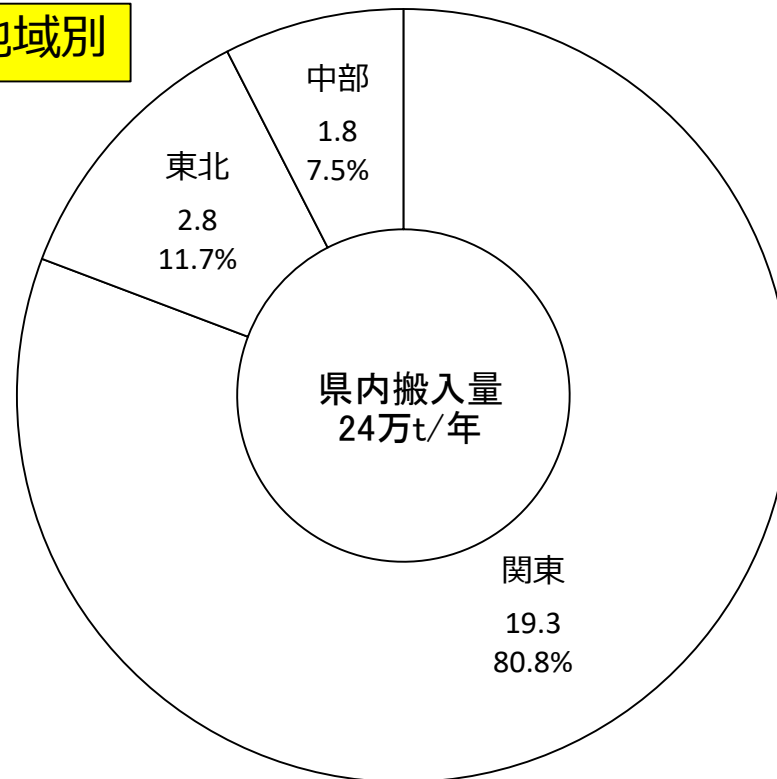
- ◆ 県外からの搬入量は、震災前は30万トン台であったが、震災後には40万トン台で推移。
- ◆ うち最終処分目的はH23に増加したが、その後は、ほぼ20万トン前後で推移。

(1 2) 最終処分目的で県外から搬入された産業廃棄物の状況 (H28年度)

種類別



地域別



- ◆ 種類別では、汚泥が最も多く全体の1/4程度、次にガラスくず、廃プラ、がれき類の順。
- ◆ 地域別では、関東地方が全体の8割以上と圧倒的に多く、次に東北地方が1割程度。